

## 第5学年 学級活動（2）学習指導案

日 時 平成29年10月27日（金）2校時  
指導者 教育センター 所員 平川 美葉

- 1 題材 GO! 5-〇組 パワーアップ大作戦!! その3 「あいさつは心をつなぐリボン」  
学級活動（2）日常生活や学習への適応及び健康安全 イ 基本的な生活習慣の形成

### 2 題材について

#### （1）児童の実態

本学級の児童は、全体的に明るく活発で、和やかな雰囲気です。学校生活を送っている。思いやりのある行動も多く、困っている友達に温かい言葉をかけたり、体調が悪そうにしている友達に「一緒に保健室に行こう」と優しく言葉をかけたりする場面が見られる。また、係活動や委員会活動に真面目に取り組もうとする児童が多い。しかし、時々自分がやるべきことだとわかっているのに、つい友達に任せたり、「このくらいでいいかな」と適当なところでやめたりと、やや主体性、積極性に欠ける面もある。

本題材におけるあいさつについては、4月に学級で決めた「5の〇 9か条」という目標の中の1つとして挙げられている。

そこで、あいさつについて児童の実態を知るために、事前にアンケート調査を行った。その結果を見ると、あいさつの必要性は十分に理解できている。あいさつをすることは、全員が必要だと考えているにもかかわらず、常に実践できている児童は半数に満たない。この実態を課題として共通理解をし、実践につなげていく必要がある。また、経験と感じ方を見ると、ほぼ全員の児童が「あいさつをされて嬉しかったことがある」と回答していることから、あいさつをされる側としての喜びは感じることができている。その一方で、学級の4分の1の児童が「あいさつをしてよかった」、「あいさつをすると気持ちいい」と思ったことがないと回答している。このことから、あいさつをする側としての達成感や喜びを感じる経験は、やや不足していると考えられる。

#### （2）題材設定の理由

「5の〇 9か条」のがんばり度についてアンケートをとったところ、あいさつについては「もっとがんばるべきだ」という回答が多かった。あいさつは日常的なものだからこそ、自分の実践を振り返ったり、その実践の難しさと向き合ったりする機会は少ない。そこで、学級全体で取り組み、自分と向き合わせながら、一人一人の実践を充実させたいと考えた。また、あいさつは人とのつながりの第一歩であることから、学級の仲間とのつながりを深めていくことにもつながるのではないかと考え、本題材を設定した。

あいさつの声が響く学級にしていく中で、自分から友達と関わり、学級の目標である「笑顔で元気なあいさつができるみんなが幸せなクラス」を実感できるようにしたいと考える。

#### （3）指導過程と手立てについて

指導に当たっては、自分に合っためあてを設定して実践することを経験する中で「なりたい自分になっていくこと」と「仲間とともに伸びていくこと」を意識させたい。互いにその頑張りを支え、認め合う場をつくり、集団の関わりの中で自己実現に向かわせたいと考える。

そのために、道徳の授業との関連を図り、学級活動の前後で道徳の授業を行う。事前指導前の道徳の授業において、児童は、読み物資料の主人公と自分とを重ねたり比べたりしながら、あいさつのよさを考えたり、「しなければ」と思いながらもできない難しさに共感したりすることができる。その上で、事前指導であいさつのロールプレイングを行いながら日頃の自分を振り返ら

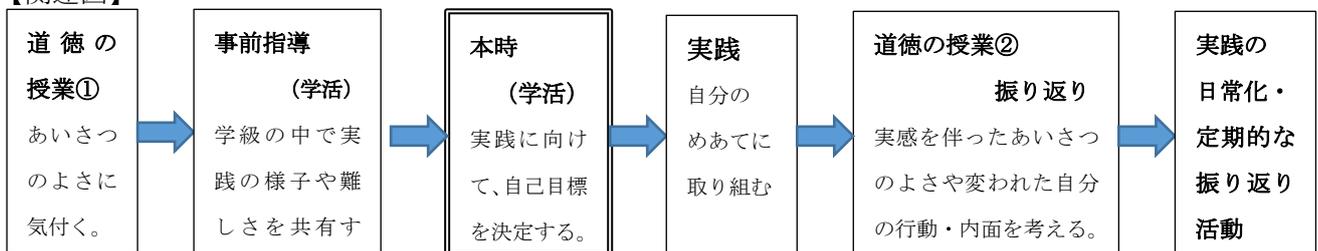
せる。また、「得徳パワー（いいこと・成長できること）」について考え、前向きに道徳的实践に取り組む意欲を伸ばしたい。また、バウンダリーワークの活用によって、今の自分の実態に合った実践のめあてを設定することができるようにする。さらに、実践途中の頑張りを振り返る「がんばりカード」には、自分の振り返りだけでなく、友達から応援コメントを書いてもらう欄を設けて友達との関わりを持ちながら進める。「がんばりカード」は、実践のステージ1とステージ2に分かれており、ステージ2では、めあてをレベルアップさせてもよいこととしている。自分なりに「よりよい自分」を目指し、めあて達成に向けて取り組めるようにし、実践の継続を図りたい。

#### ア 道徳との関連について

児童の自主的な実践を促し継続させるためには、問題意識を持たせ、実践することに対する内面的な動機付けが必要だと考える。そこで「あいさつをすること」について、自分のこととして考え、自分なりに実践する価値を見出すために道徳の授業との関連を図り、自分と資料中の主人公を重ねるなどして、あいさつの難しさや大切さを実感させたいと考える。

特に、実践後の振り返り活動を道徳で行うことで、児童の実践がこれからの生活により生きて働く力になり、次の道徳的实践につながるようにしたいと考えている。実感を伴ったあいさつのよさについて考え、あいさつの難しさの壁を自分が乗り越えた過程やその過程にあった出来事や思いなどを見つめ直すことで、あいさつの価値の内面化を図りたい。また、自分の思いを友達と交流する中でお互いの頑張りを認め合い「仲間とともに伸びている自分」に気付かせたいと考える。

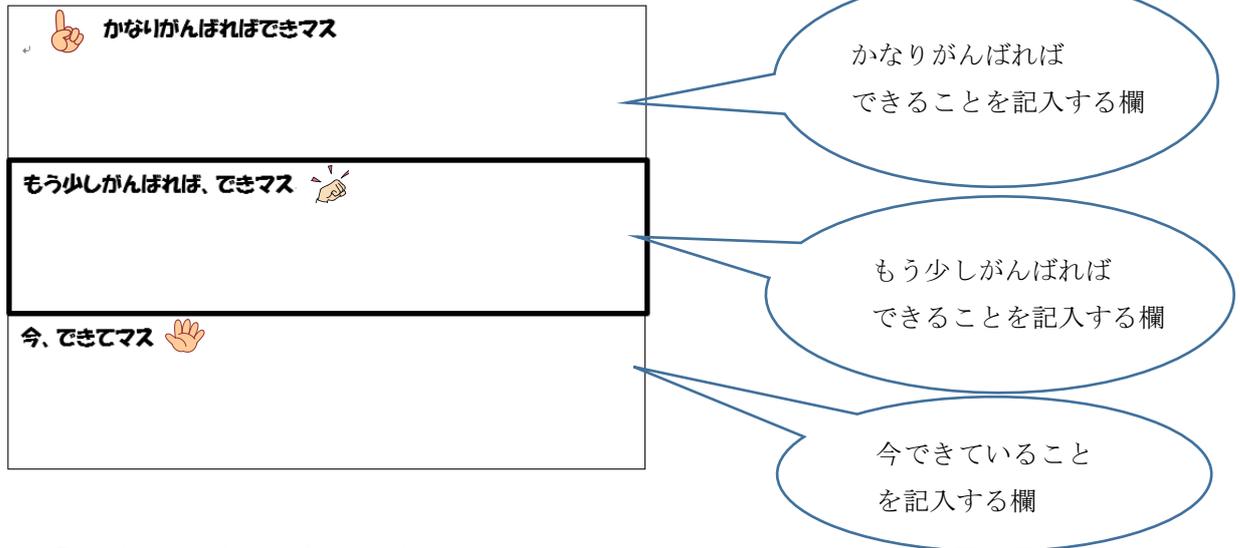
#### 【関連図】



#### イ バウンダリーワークの考え方を取り入れた活動について

バウンダリーワーク（境界線引き）とは、自己を分析し、よりよくしようとする自律的な資質能力を養うための指導の視点であり、「がんばればできること」と「がんばってもできないこと」を切り分ける考え方である。この考え方を取り入れ、児童が自分に合った目標設定をするための手立てとした。

学級の中で出し合った解決策を「今できていること」「もう少しがんばればできること」「かなりがんばればできること」に整理することで自分に合った実践のめあてを設定する。そうすることで、自分できていることを確認し、友達と認め合い、「よりよい自分」を目指す道筋が見えやすくなると考える。児童は、まず自分でバウンダリーワークを行うシートに「今できていること」「もう少しがんばればできること」「かなりがんばればできること」を記入する。その後、ペア対話の中で互いに「今できていること」を認め合い、適切なめあてになるように目標設定に対してアドバイスし合う。最後にステージ1の実践のめあては、児童がバウンダリーワークを行うシート中の「もう少しがんばればできること」の欄に記入したものに決定する。もし、そのめあてが達成できた場合は、「かなりがんばればできること」をステージ2の実践のめあてとして取り組むことを児童に勧める。



ウ 「得徳パワー（よいこと・成長）」について

「あいさつ」の価値を意識させるために、あいさつができるようになることで、自分にとってどのようによいことがあるのか、心の成長があるのかを考えてみるように児童に投げかける。そこで出された考えを「得徳パワー（よいこと・成長できること）」と呼んでいる。実践する意義を捉え、前向きに道徳的实践に取り組む意欲を喚起することをねらいとしている。また、現在の「よりよい自分」だけでなく、将来の自分の在り方に目を向けることにもつながると考えている。

3 評価規準

集団生活や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
あいさつに関する自分の目標を持ち、よりよい自分になるように意欲的に取り組もうとしている。	集団としての課題について話し合い、自分の目標の実現に向けて何をすべきかを判断し、目標を設定して実践している。	あいさつをすることの意義や大切さについて学び、基本的な生活や学習の仕方などについて理解している。

事前の指導

日時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
10月17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材を知る</li> <li>・ロールプレイングを行う。</li> <li>・「得徳パワー」を考える。</li> <li>・アンケート調査の結果をまとめる。 (調査隊のみ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「5の○ 9か条」の中で、達成させたいものとして挙げられていることを示し問題意識が持てるようにする。</li> <li>・これまでのあいさつ経験の差を考慮し、あいさつをする側とあいさつされる側を全員が経験することで、「笑顔で元気に(気持ちのよい)あいさつをすること」について学級全体で共有できるようにする。</li> <li>・あいさつをすることの難しさにも着目できるようにする。</li> </ul>	<p><b>【関心・意欲・態度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「あいさつ」のことについて、自分たちの課題だと真剣に受け止めている。</li> <li>・「あいさつ」をする側と受け手になって、自分がどんなあいさつをしているかを振り返る。(発言、観察、ワークシート)</li> </ul> <p><b>【知識・理解】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつをすることのよさや心の成長について理解することができる。 (発言、観察、ワークシート)</li> </ul>

5 本時のねらい

気持ちのよいあいさつができるように、自分の実態に合った実践のめあてを考え、自己決定をすることができる。

6 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
導入 (つかむ・さぐる)	1 調査隊からの報告で、アンケートの結果と気づきをクラス全体で共有する。 ・大切なことはわかっているが、苦手な人も多い。 2 「得徳パワー」を確認する。 ～予想される児童の反応～ ・仲良くなれる。 ・優しい人になれる。 ・礼儀正しい人になれる。 3 めあてを知る	○できていない人を責めることにならないように留意する。 ○必要だと思っているのに、なかなかできないのはなぜか、という点に着目するように促す。 ○アンケート結果を基にしたり、道徳の授業を想起させたりして、よさだけでなくあいさつの難しさ（苦手な理由）についても本音を引き出す。	
今の自分よりも、あいさつがパワーアップするために、自分に合っためあてを決めよう。			
展開 (見つける)	4 あいさつができるようになるために取り組めばよいことを全体で話し合う。 ～予想される児童の反応～ ・目を見て、自分からする。 ・相手に聞こえるようにする。 ・笑顔で元気にあいさつする。 5 バウンダリーワークを行う。 ～予想される児童の記述～	○苦手な理由を克服することを考えながら、どんなあいさつに取り組んでいくか「いつ」「どこで」「誰に」「どんなふうに」という視点で解決策を考えさせる。 ○様々な解決方法を引き出せるような発問をする。 ○出された解決方法を基に、自分にとっての「今できていること」「もう少し頑張ればできること」「かなり頑張ればできること」を考えて整理するように促す。 ○何を書いてよいか迷っている児童には、「今できていること」を教師側から伝えるなど個別に支援をする。 ○出された解決方法はどれもできていると考えた児童がいる場合は、全体に投げかけて他の	<b>【思考・判断・実践】</b> バウンダリーワークを行い、友達の意見等を参考にあいさつをすることについて「いつ」「どこで」「だれに」「どんなふうに」の視点をもって、実践していく自己目標を立てている。（発言、ワークシート）
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>かなりがんばればできマス</b></p> <p>先生より先に元気にあいさつをする。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>もう少しがんばれば、できマス</b></p> <p>校内で相手に聞こえるようにあいさつをする。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>今、できマス</b></p> <p>教室で友達といっしょにする。</p> </div>			

<p>展開 (決める)</p>	<p>6 目標設定についてペアで話し合う。</p> <p>～予想される対話例～</p> <p>A：「もう少しがんばればできることは、『聞こえるような声であいさつをする。』です。」</p> <p>B：「Aさんは、それはもうできていると思います。だから、もう少しだけ難しいことをめあてにした方がいいと思うよ。」</p>	<p>解決方法を引き出す。または、「あいさつが苦手な人から自分からあいさつをする」や「あいさつのと、ひと声かける」などの例を教師が示す。</p> <p>○「もう少しがんばればできること」を実践のめあてにすることを確認し、そこに書かれたことが簡単すぎないかどうか、難しすぎないかどうかを2人で考えて話し合うことを説明する。</p> <p>○「今、できていること」をお互いに認め合い、互いにアドバイスをし合うことで、自分に合った目標設定にできるようにするという意図を十分に伝える。</p>	
<p>終末</p>	<p>7 振り返りをする。</p>	<p>○自分に合った実践のめあてを持つことができたか、またその理由を振り返るように促す。</p>	

## 7 実践の日常化に向けて（朝の会・帰りの会などを利用して行う振り返り）

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が立てた目標と取組について振り返る。</li> <li>・隣の席の友達に自分の実践について話をする。</li> <li>・友達の頑張りを聞き、ほめたり励ましたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帰りの会などを利用して友達同士で取組を確認し合う場を設ける。</li> <li>・基本的に隣の席の友達と自分の実践の振り返りについて話をするが、全体で共有したいことなどについては、教師が取り上げる。</li> <li>・友達同士でお互いの頑張りを認め励ましながら、実践の継続化を図る。</li> <li>・教師からも、児童の実践の様子を称賛したり、変容が見られる点について取り上げたりして価値付けを行う。</li> </ul>	<p><b>【思考・判断・実践】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつをすることについて「いつ」「どこで」「だれに」「どんなふう」に実践するかについて具体的なめあてを考え、進んで実践している。（がんばりカード、発言）</li> </ul>